

中央大学国際経営学部 企業訪問報告書

調査テーマ	国内外で活躍するシンクタンク・コンサルティング会社の研究
報告者	国際経営学部国際経営学科 1年 松野 雄一郎
調査日	2023年6月28日
調査先	三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング株式会社 経済政策部 産業イノベーショングループ 主任研究員 齋藤 禎 様 副主任研究員 北 洋祐 様 研究員 谷口 真一 様 持続可能社会部 国際研究グループ 主任研究員 島村 真澄 様 主任研究員 武井 泉 様
担当教員身分・氏名	国際経営学部教授・国松 麻季
CVS(企画運営団体)担当	北口ジュリオ愛学、小峰奈緒
授業科目/学部企画名	企業訪問
参加学生数(学年)	20名(3年生8名、2年生8名、1年生4名)
調査趣旨・目的	企業研究の一環として、三菱 UFJ リサーチ & コンサルティングの業務内容を知り、政策研究・コンサルティング事業の知見を深める。
調査結果	<p>今回の訪問では、三菱 UFJ リサーチ & コンサルティングの経済政策部産業イノベーショングループと持続可能社会部国際研究グループの方々より、事前に送らせていただいた質問に答えていただく形でお話を伺いました。</p> <p>最初に経済政策部産業イノベーショングループでは主にスタートアップエコシステムを日本で整備、加速させていくことに注力していることと説明いただきました。特に SBIR (Small Business Innovation Research) という、中小企業の研究開発を段階的資金援助によって支援していく国単位の取り組みにおいては立ち上げから携わり、現在もシステム向上のためにプロジェクトを進めていることを学びました。</p> <p>また、持続可能社会部では主に国際支援に携わっており、シンクタンクとして ODA や JICA の国際支援に対しての調査、評価、報告を行っているとお話を伺いました。完了したプロジェクトの評価をもとに類似プロジェクトへのフィードバックや資金源である税金が正しく使われているのか、といった評価の目的や、インプット→活動→アウトプット→プロジェクト目的(アウトカム)→上位目標(インパクト)というロジックに基づいて評価する際、6つの視点(効率性、有効性、インパクト、持続性、妥当性、整合性)と、支援国の環境や政策の特徴などの外部条件の両方をフォローしつつ行っていることを教えていた</p>

できました。

今回の訪問を通じ、研究員の方々それぞれがお持ちの問題意識や専門性に基づきチームを組成され、プロジェクトを計画、実行されることで社会に貢献できるという、政策研究分野での業務の魅力を感じました。

参加者の一年生からは、「社員の方々のようになれるよう、これからの大学生活を大切にしていきたい」という声や、「企業や国・自治体を相手にした大きなスケールでのプロジェクトの中で、コミュニケーションなどの繊細なアクションを大切にされていると知り、プロとしての仕事に対するプライドを目の当たりにした」などの声が聞かれました。また、「研究員の方々の圧倒的な熱量こそ、プロジェクト成功の糧になっていると感じました。実際に現在進んでいる事業のお話を中心に伺い、大変有意義な企業訪問となった」といった感想もありました。

今回の訪問は、私にとって新たな取り組みではありましたが、各人が気づきを持ち、自分の見聞を広めるとも実りのある機会となりました。

なお、今回の訪問は、企画運営団体である CVS (Company Visit Supporter) の新体制を担う4期生が、秋に実施される本訪問を円滑に行うための運営経験も兼ね、新たな取り組みとしての実施となりました。

※調査時の写真



お話を伺っている様子



三菱 UFJ リサーチ & コンサルティングの方々



質問をする一年生



中大饅頭と中大クッキーのお土産です!



集合写真! いい笑顔です!



最後はみんなで中大ポーズ!